

= 支部だより =

北海道支部

北海道支部・地域講演会の開催報告

テーマ: 「雪氷をたのしむ in 旭川」

日時: 2011 年 12 月 10 日 (土) 13:00-15:45

場所: 旭川市科学館サイバル (旭川市宮前通東)

主催: 社団法人日本雪氷学会北海道支部

共催: 旭川市教育委員会, 北方建築総合研究所

後援: 旭川市, 東海大学

協力: 社団法人北海道開発技術センター, 北海道大学 IFES-GCOE 環境教育研究交流推進室

内容: (1) 講演会 (2) 工作 (3) 実験

参加者: 44 名

■講演

「雪をデザインする」

林 拓見 (東海大学)

「雪と氷の素材としての魅力をさぐる」

平松和彦 (福山市立大学)

■工作

「雪結晶の万華鏡をつくってみよう」

荒川逸人 (野外科学株式会社)

中村一樹 (北海道大学)

高橋章弘 (北海道立総合研究機構)

金田安弘 (北海道開発技術センター)

伊東敏幸 (北海道工業大学)

■実験

「雪結晶とダイヤモンドダストをつくってみよう」

平松和彦 (福山市立大学)

中村一樹 (北海道大学)

■全体概要

社団法人日本雪氷学会北海道支部では、毎年、札幌以外の北海道各地において、「雪氷」に関する啓蒙活動を行うことを目的として「地域講演会」を開催しています。2011 年度は、「楽しむ雪氷科学」あるいは「雪景色をつくりだす、デザインする」といった新たな視点から、雪国に住む私達がどのように雪氷と付き合っていくべきかを考える

ため、豪雪地である旭川市において講演会を開催しました。講演会では、雪氷を素材とした工作や実験もあわせて実施しました。参加方法は、旭川市の広報誌、旭川市科学館サイバルおよび日本雪氷学会北海道支部のホームページによる事前申し込み制として、当日は定員 40 名を上回る 44 名 (大人 15 名、子供 29 名) の参加人数となりました。

先ず、北海道支部長の高橋修平氏より、開会の挨拶および子供向けの雪氷クイズが行われ、高橋



図 1 支部長の挨拶・雪氷クイズ出題の様子



図 2 「雪をデザインする」の講演会の様子

支部長の南極観測隊時（若かりし頃？）の写真，南極観測船「しらせ」などがスクリーンに映し出され，クイズ正答者のトップ3名にプレゼントを渡されるなど，参加者がワクワクするような講演会のはじまりとなりました。

講演1では，「雪をデザインする」と題して，東海大学の林拓見氏から雪を積極的かつ肯定的に取り入れることで，冬の暮らしに快活さや彩りをもたらす，あるいは健康的で心豊かな冬の暮らしに役立たせる等，雪の効用について紹介されました。

講演2では，「雪と水の素材としての魅力をさぐる」と題して，福山市立大学の平松和彦氏から水の変身，雪と氷の違い，南極の万年雪の話，アイスワインや氷結ワインの作成方法など，雪氷の素材としての魅力や利用方法，有効性について紹介されました。

その他，工作「雪結晶の万華鏡をつくってみよう」や実験「雪結晶とダイヤモンドダストをつくってみよう」が行われました。雪結晶の万華鏡づくりでは，塩ビミラー板やガラスビーズなどを材料に万華鏡を作成しました。作成には若干手間取っていましたが，ガラスビーズの量や色の違いで，様々な形に見え，各人で完成させた万華鏡をのぞき込み，同一なデザインのものがなかったことや，模様の美しさなどに歓声が上がっていました。また，雪氷等の実験では，平松式雪結晶生成装置による雪結晶を作ることや復水実験など，日頃みる機会がない実験のため，参加者は目を輝かせて観察していました。

今回の地域講演会は，講演2題のほか，工作および実験と，短時間の中に盛りだくさんの内容となりました。参加した子ども達の表情は明るく，北海道では身近な存在である雪や氷に対する好奇心や興味が増したように感じられました。次年度以降も雪氷学会支部会員による普及啓発活動が活発化されるよう，早い時期から構想を練る必要性も感じさせられた講演会でした。

（北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所
高橋章弘）

（2011年12月19日受付）



図3 「雪と水の素材としての魅力をさぐる」の講演の様子



図4 雪結晶の万華鏡を作成する親子

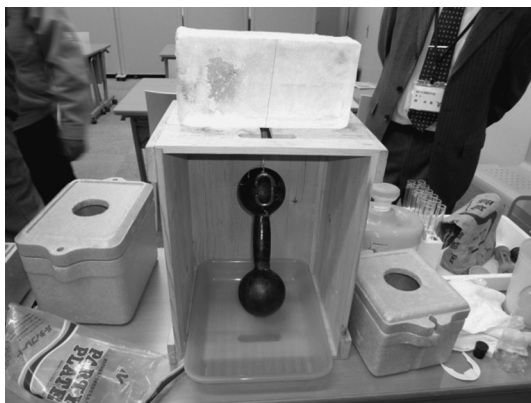


図5 復水の実験